

海外研修 a

① 文学部英文学科 准教授 早野 薫

研修期間 2022年4月1日～2023年3月31日

研修先 フィンランド（ヘルシンキ大学）

指導担当者 Marja-Leena Sorjonen

（フィンランド語・フィン・ウゴル語派・スカンジナビア言語学科 教授）

研修課題 子どもをとりまく相互行為の会話分析研究

報告内容

会話分析の専門家が多く在籍するヘルシンキ大学を研修先とし、研究課題「子どもをとりまく相互行為の会話分析研究」に取り組んだ。研究発表や研究会を重ねて現地の研究者、とくに幼児を中心とした相互行為研究の専門家との研究交流を深めた。これらの活動を通して、データの文字化と分析を進め、養育者が互いの社会的役割に志向しながら子どもを中心とした相互行為の中で浮上する課題を協同で解決する際に用いる実践を記述した。研究成果の一部は、国際専門誌 *Research on Children and Social Interaction* (Equinox) の特集号に掲載が決まっている。また、同特集号の編者を Danielle Pillet-Shore 氏とともに務め、本研究課題と深い関わりのある研究をまとめて発表することができた。

海外研修 a

② 人間社会学部文化学科 准教授 水野 僚子

- 研修期間 (1) 2022年 4月1日～2022年9月30日
(2) 2022年10月1日～2023年3月31日
- 研修先 (1) ドイツ (ハイデルベルク大学)
(2) アメリカ (ハーバード大学)
- 指導担当者 (1) Melanie Trede (東アジア美術史研究所 教授)
(2) Melissa McCormick (東洋学部・美術史学部 教授)
- 研修課題 日本絵画における女性表象の意味と機能に関する研究
欧米における美術史学の研究方法および理論構築に関する研究

報告内容

女性表象に注目し、Gender の視点から新しい物語絵画の解釈を積極的に試みてきた申請者は、更に広い視野による研究を目指し、海外の最新の日本美術史研究の方法論や批評理論を学ぶため、アメリカの Harvard 大学 Reischauer 日本研究所に客員研究員として在籍し、Melissa McCormick 教授の指導の下、中世の王朝物語や仏教由来の物語絵画の研究について学んだ。後半は、ドイツの Heidelberg 大学東アジア美術研究所に客員研究員として在籍し、Katharina Rode 准教授と Melanie Trade 教授のもと、Trance Cultural Studies や物語絵画の解釈の可能性について学んだ。

欧・米双方において実践的な研究の方法論を学び、欧米の研究者と広く交流ができたこと、シンポジウムへの参加や特別授業を行うことによって、直に海外の研究者や学生とディスカッションができたことは大きな成果となった。また、滞在中に大学美術館や、欧米各地の美術館で作品調査が実施できたことは大変重要で貴重な機会であった。

海外研修 b

文学部日本文学科 教授 渡部 麻実

研修期間 2022年10月1日～2023年3月31日

研修先 フランス（パリ大学）

指導担当者 Cécile SAKAI（パリ大学 教授）

研修課題 〈読書場〉が再構成する、日本近代文学テキストの分析可能性ならびに、研究資料としての旧蔵書の保護・データ化・活用に関する研究

報告内容

セシル坂井名誉教授、ダニエル・ストリューブ教授、トマ・ガルサン准教授に協力を仰ぎ、フランスにおける日本文学研究の中心的機関である Université Paris Cité に拠点を置いた。同機関や Inalco が主催・共催する多数のシンポジウム・研究会に参加し研究交流をはかるとともに、フランス国内においては、LCAO、BULAC、Musée Guimet、Collège de France の各付属図書館ならびに BnF で、フランス国外ではチューリッヒ大学、ライデン大学の各付属図書館とベルリン州立図書館で、文献調査およびインタビュー調査を実施した。〈資料〉をめぐる公開の在り方についてはとくに、日本国内との顕著な差異が確認された。本研究課題に関連する2022年度中の成果として、論文2本、口頭発表1件がある。あわせて、4回の研究会と1回のワークショップを主催し、学術誌『近代作家旧蔵書研究（年報）』の編集発行を行った。